

## 1 授業日における臨時休業日数の状況

### (1) 小・中学校について

①平成21年7月14日から12月22日の間に、新型インフルエンザにより臨時休業をした小学校は214校中155校(72.4%)、中学校は89校中72校(80.9%)であった。

②臨時休業した日数については小中学校とも1～10日で、小学校では4日(35.9%)、5日(32.4%)が多く、中学校では5日(34.9%)、4日(28.4%)が多かった。

### (2) 高等学校について

①平成21年8月31日から12月22日の間に、新型インフルエンザにより臨時休業をした高等学校は、課程別で45校中29校(64.4%)であった。

②臨時休業した日数については2～6日で、4日(36.5%)、5日(34.6%)が多かった。

## 2 小・中学校における対応状況

(1) 臨時休業した小・中学校における対応状況は、次のとおりである。(複数回答)

	小学校 (全校数214校) 臨時休業した学校数155校	中学校 (全校数89校) 臨時休業した学校数72校
1 放課が早い曜日等に、1単位時間多く授業を設定する。	91校 42.5%	47校 52.8%
2 1時間目始業前を短時間活用して、計画的に教師が教科等を指導し、それを合計して授業時数とする。	85校 39.7%	4校 4.5%
3 昼休みを短時間活用して、計画的に教師が教科等を指導し、それを合計して授業時数とする。	16校 7.48%	0校 0%
4 放課後を短時間活用して、計画的に教師が教科等を指導し、それを合計して授業時数とする。	59校 27.6%	7校 7.9%
5 冬季休業日に、授業日を設けた。	54校 25.2%	45校 50.6%
6 土曜日や日曜日、祝日に、授業日を設けた。	4校 1.9%	1校 0.5%
7 検討中である。	3校 1.4%	1校 1.1%
8 特別な取組はしなかった。	16校 7.5%	5校 5.6%
9 その他	19校 8.9%	20校 22.5%

(2) 冬季休業日等に授業日を設けた合計日数について、小学校では1～5日で、臨時休業した学級が補充した授業時数の合計は1～35時間であった。

また、中学校では1～7日で、補充した授業時数の合計は2～35時間であった。

(3) 特別な対応をしなかった学校は、小学校16校、中学校5校あったが、その主な理由は授業時数が確保されているということである。

(4) 学校行事に関する取組を行った小学校は71校、中学校は39校あり、その主な取組としては、次のとおりである。

- ・ 終業式、始業式当日に補充授業を実施。
- ・ 講演会、観劇、全校集会等の中止或いは精選。
- ・ 学習発表会や卒業式の練習時間の短縮。
- ・ 個人懇談日を短縮し、6校時まで授業実施。
- ・ 定期テストを一日で実施。

### 3 高等学校における対応状況

(1) 臨時休業した高校における教育課程実施に関する対応状況は、次のとおりである。

(複数回答)

(全校数45校、臨時休業した校数29校)

- |                            |              |
|----------------------------|--------------|
| ①臨時休業中に、学習課題を出し提出させた。      | … 19校(65.5%) |
| ②授業日の放課後に1～2時間ずつ補充授業を実施した。 | … 12校(41.4%) |
| ③冬季休業日中に授業日を設け補充授業をした。     | … 8校(27.6%)  |
| ④冬季休業日中等に特別補習等を実施した。       | … 3校(10.3%)  |
| ⑤土日に補充授業を実施した。             | … 0校(0%)     |

(2) 冬季休業中に授業日を設けた学校において、その日数は1～3日、実施時数は6～18時間であった。

(3) 特別な対応をしなかったという学校はないが、臨時休業期間がちょうど球技大会等の期間に重なり、授業がなかったのが、対応をしなかったケースがあった。一方、複数項目の対応をした学校は17校あった。

(4) 学校行事に関する取組を行った高等学校は7校あり、その主な取組としては、次のとおりである。

- ・ 終業式、定期考査の午後に補充授業を実施。
- ・ 文化祭、中間考査を延期。
- ・ 球技大会を中止。
- ・ 家庭訪問実施。